

常任委員会行政視察報告書

委員会名	文教市民委員会
視察委員	委員長 石川 勝 副委員長 里野善徳 委員 澤田直己、澤田雅之、井口直美、井上真佐美、生野秀昭、 吉瀬武司、竹村博之
視察期間	平成 29 年 7 月 25 日（火）から 7 月 26 日（水）まで 2 日間
視察内容等	<p>1. 視察先及び調査事項</p> <p>1 日目 横浜市 教職員の負担軽減に向けた取組について</p> <p>2 日目 東京都台東区 外国人観光客の受入れ体制の整備及び浅草文化観光センターの活用について</p> <p>2. 調査の概要及び意見（横浜市）</p> <p>ア. 横浜市の主な事業概要</p> <p>平成 25 年度に「横浜市立学校 教職員の業務実態に関する調査」を行った結果、約 9 割の教職員が忙しいと感じていることが明らかになり、業務改善の支援や人員配置の充実等を実施してきた。</p> <p>具体策は以下の通り。</p> <p>（1）業務改善支援策の取組</p> <p>①業務量を減らすことで負担を軽減する取組</p> <p>a. ICT等を活用した業務改善</p> <p>b. 調査・依頼件数の削減</p> <p>c. 学校に提出を求める文書の簡素化</p> <p>d. 研修の精査・精選</p> <p>②業務をサポートすることで負担を軽減する取組</p> <p>a. 学校教育事務所による法律相談体制の強化</p> <p>b. 部活動指針の改定</p> <p>c. 中学校部活支援事業（外部指導員の派遣）</p> <p>d. 職員室のレイアウト改善</p> <p>e. 夏季休業中の学校閉庁日の実施</p> <p>③環境を整備することで負担を軽減する取組</p>

- a. より良い環境の整備
- b. メンタルヘルスチェックの実施

(2) 専門スタッフなどの人員配置の充実

- a. 職員室業務アシスタントの配置
- b. 理科支援員配置事業
- c. 日本語指導が必要な児童生徒支援
- d. 学校カウンセラー配置
- e. スクールサポート事業
- f. 特別支援教育支援員の配置
- g. 学校栄養職員未配置校支援事業

イ. 主な質疑内容

担当者から説明の後、委員から次の質問があった。

- (1) 取組を実施した経緯
- (2) 負担軽減ハンドブック・部活動指針の作成経緯
- (3) 教職員の業務実態（変化など）
- (4) 取組の効果
- (5) プレスツアーを始めた理由
- (6) 部活動外部指導者派遣による効果
- (7) 部活動指導者の人材確保策
- (8) 保護者や地域の反応
- (9) 今後の課題

ウ. 委員会としての所感

- (1) 施策展開には教育長が深く関与し先導している。
- (2) 一点突破的な方針ではなく、総合的な施策展開に見えるが、実は個別案件をコツコツ積み上げてきた成果である。
- (3) 吹田市と比較した場合、既に吹田で取り組んでいるものも多く、吹田のほうが充実している施策も見受けられた。
- (4) 面積、人口とも吹田の約10倍であることから、全市にわたる画一的な取組ではない（学校によって差がある）。
- (5) 書類提出などの業務量の増大が最も注視すべき課題である。
- (6) 学校の組織力を高め「チーム体制」の構築が重要である。
- (7) 吹田においても近隣大学との連携を強化すべきである。

エ. 各委員の所感

(1) 横浜市における教職員の負担軽減に向けた取組を参考に、平成 29 年 9 月定例会でも質問をした。事務事業等の ICT 化、外部人材の登用などは今後ますます必要とされるだろう。

また、学習指導要領等の改訂が行われたことにより、学校現場の負担は更に増すことが予想される。教員の更なる自己研鑽、教育の質と授業時間の確保も含めて今後、教育委員会の取組に注視しながら、議会でも積極的に発信していきたい。

(2) 調査・依頼事項の削減、業務サポート、専門スタッフの人員配置により教職員の業務が削減され、子供と向き合う時間が確保され、教職員からは良くなったとの意見があり、雑務軽減につながり効果が出ているそうである。

教員にしつこく押し付ける保護者もいる状況の中、横浜市の取組は画期的である。本市も教職員の負担軽減に向けた取組を検討すべきと考える。

(3) 教職員が子供としっかり向き合う時間を確保するために、教職員の負担軽減に向けた様々な取組をされており、大変参考になった。毎年「教職員の負担軽減ハンドブック」を発行し、各学校の具体的な参考事例を紹介されており、きめ細やかな支援を実施されている。

職員室業務アシスタントの専門スタッフなどの人員配置や業務量の削減に向けた支援の取組は、ぜひ本市でも導入すべきと考える。

(4) 吹田市においても教職員の負担軽減に対する業務改善を行っているが、横浜市の事例を視察して以下の点を感じた。

①担当の職員が国の業務改善に関するアドバイザーを行っている人物であることから、総合的な改善策を国と歩調を合わせて取り組んでいる。(アンケートや分析は専門家に委託し実態を把握)

②教職員周辺の課題に専門家を含むチームで解決するという意識改革と、チームの具体的な配置が計画的に行われている。

(5) 横浜市のコンセプトは「教職員が子供としっかり向き合う時間の確保のために」で、理念がしっかりとしていると感じた。課題解決の進め方は、教職員の勤務実態と業務遂行意識を把握した上でハード、ソフトの両面で可能なことから具体化すること。

業務改善支援は、①学校ホームページのシステム化、②調査・依頼事項の削減、③研修の精査・精選、④学校閉庁期間の設定、⑤職員室のレイアウト改善など。

人的配置は、①職員室業務アシスタント(大規模小学校 30 校)、②学校司書(全校)、③理科支援員(231 校)、④児童支援専任教諭(全

小学校、現場から高い評価)、⑤スクールカウンセラー、⑥スクールソーシャルワーカーなどの人的サポートの実施。質疑の中で、少人数学級の実施状況を確認した。

3. 調査の概要及び意見（台東区）

ア. 台東区の子な事業概要

「観光の持続的発展」を観光振興の理念として、「本物に会えるまち」を目標に掲げ、5つの基本方針のもと2020年を視野に施策を展開している。

(1) 重点プラン

- a. 外国人観光客歓迎プラン
- b. おもてなしの心育成プラン
- c. ハードとハートのバリアフリープラン
- d. 千客万来受入プラン
- e. 歴史と文化のまちPRプラン

(2) 浅草文化観光センターの官民連携による施策展開

- a. 平成24年東京スカイツリー開業を見据えリニューアルオープン
- b. 平成22年度入館者数約44万人が、平成28年度は約120万人
- c. 窓口業務の一部をボランティアで運営
- d. ボランティア団体と連携した施策展開
 - ・カウンター案内窓口
 - ・浅草同行ガイド
 - ・上野同行ガイド
 - ・区内周遊ガイド
- e. 今後の課題
 - ・多言語対応
 - ・浅草、上野地区以外の地区の同行ガイド拡大
 - ・行政計画とボランティア団体の活動調整
 - ・ボランティア団体への支援

イ. 主な質疑内容

担当者から説明の後、委員から次の質問があった。

- (1) 予算について
- (2) 観光センター利用者の反応
- (3) 外貨両替所の稼働状況（ニーズ）
- (4) 観光センターの今後の課題

ウ. 委員会としての所感

- (1) 観光客を誘致する段階から、いかに充実し伸ばすかの段階へと進んでいる。
- (2) 東京都との連携が多く、オリンピック効果も絶大。
- (3) 官民連携が充実しており、今後の可能性も感じる。
- (4) 建物がデザインに凝りすぎていて使い勝手が悪く、もったいない感があるが、一方で設計者人気で集客力もある。

エ. 各委員の所感

- (1) 世界有数の観光地である東京都の中心部にあり、上野公園や浅草を抱える台東区と本市のインバウンドの取組を比較するには無理があった。

ただし、フリーWi-Fiの整備、バリアフリーの推進、おもてなしの心を持った案内表記や案内所の設置等は大変参考になった。

- (2) 浅草文化観光センターは隈研吾さんの設計で2012年度のグッドデザイン賞を取得している素晴らしい建物であった。「探せる・見せる・支える」がコンセプトで、中に外貨両替所もあり、外国人観光客には非常に便利で年間120万人が利用している。東京都のオリンピック開催の補助金により建設され、吹田市がまねできないと感じる。

しかし、ボランティア団体と連携をして運営をすることは吹田市でも大いに取り入れることができる。運営方法を確立させて観光業務の発展につなげたい。

- (3) 台東区立浅草文化観光センターを見学させていただいたが、隈研吾氏設計の建物は、日本の伝統建築の持つ、木の温もりと周辺の街並みが調和したデザインが大変素晴らしく、年間100万人を越す入館者があるとのこと。

吹田市とは比較にならないが、官民連携による運営方法や、案内板の整備など来訪者に満足してもらえるような取組は大変参考になった。

- (4) 浅草文化観光センターを中心とした事業が、オリンピックに対する東京都予算の獲得に大きく寄与している。隈研吾氏設計の建物は存在感があり、新しい観光名所として注目を集めている。

吹田市と観光客の規模は異なるが、外国人観光客に対する観光施策の先進事例として参考にすべき点はあったが、吹田市が取り組むための評価と検証が必要。

- (5) 台東区は観光資源も多く、イスラム教徒も含め外国人観光客への

	対応では先進的。本市もより多くの外国人の訪問が予想され、先進事例を研究する必要があると感じた。
--	---